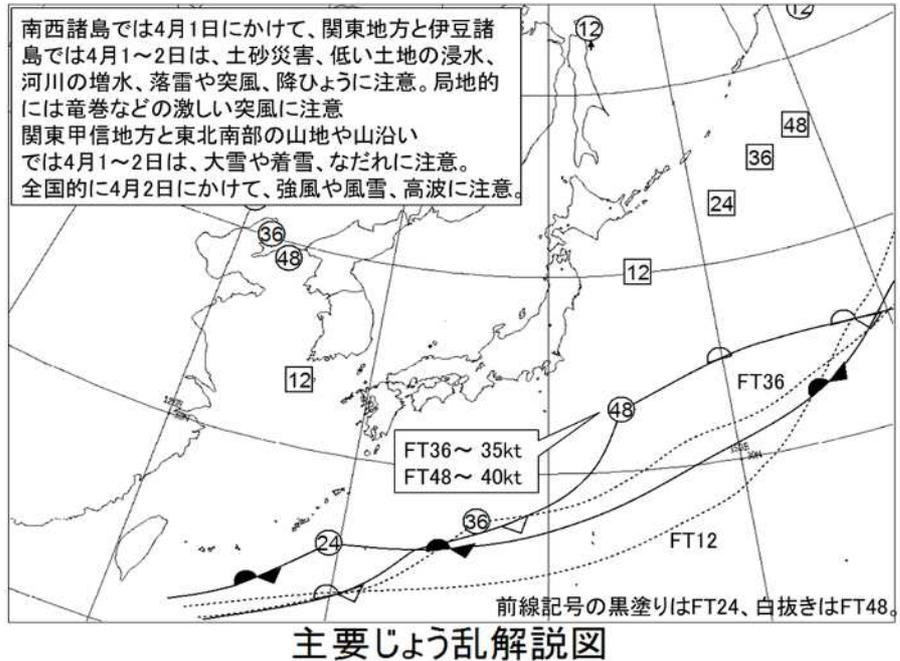


1. 実況上の着目点

- ① 東海道沖～伊豆諸島付近は地上の気圧の谷となっており、周辺では、1時間に10mm前後の降水を解析。
- ② 日本の南～小笠原近海～日本の東にかけて前線がのびている。
- ③ 東シナ海に高気圧があって、東に移動。高気圧からの湿った空気が流入している南西諸島では、1時間に10mm前後の降水を解析。
- ④ 全国的に気圧の傾きが大きくなっており、やや強い風や強い風が吹き、波が高くなっている所がある。



2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 東海道沖は4月2日にかけて、引き続き気圧の谷となる。また、関東地方沿岸部では北よりと東よりの下層風が収束し、850hPa θ e309K以上の下層暖湿気の流れの影響が加わり、大気の状態が不安定となり雷を伴った激しい雨が降り大雨となる所がある。関東地方と伊豆諸島では4月1～2日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風、降ひょうに注意。一方、関東甲信地方と東北南部の内陸では気温が低く、雪となり大雪となる所がある。関東甲信地方と東北南部の山地や山沿いでは4月1～2日は、大雪や着雪、なだれに注意。
- ② 1項②の前線は4月2日にかけて、沖縄の南～日本の南～日本の東にのびる。また、4月1日朝までに前線上の沖縄の南に低気圧が発生し、発達しながら4月2日朝には日本の東へ進む。南西諸島では、前線や低気圧に向かって850hPa θ e327K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。南西諸島では4月1日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 2項②の前線や低気圧と高気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、雪を伴った強い風が吹き、波が高くなりしけとなる所がある。全国的に4月2日にかけて、強風や高波に注意。北日本では風雪に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量子想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島120、関東甲信・沖縄100mm。
- ② 降雪量(18時からの24時間)：関東甲信20cm。
- ③ 波浪(明日まで)：東北・関東・伊豆諸島・東海・沖縄4、近畿・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。